日本化薬株式会社

最終更新日：2023年10月30日

ファインセーブフロアブル天敵・有用生物影響表

死虫率：◎＝0～30%　○＝30～80%　△＝80～99%　×99～100%

※影響日数が０日、又は影響なしであっても、散布後、薬液が乾燥するまでは影響が出る場合があるので注意してください。

天敵	供試種名	生育ステージ	処理濃度	試験方法	評価	影響日数
カブリダニ類	ククメリスカブリダニ	卵	1000倍	卵散布	◎	0日
		成虫		虫体散布	◎	
	スワルフスキーカブリダニ	卵	500倍	卵散布	◎	0日
		成虫		虫体散布	◎	
	チリカブリダニ	卵	1000倍	卵散布	◎	0日
		成虫		虫体散布	◎	
		幼体		虫体浸漬	◎	
	ミヤコカブリダニ	卵	1000倍	卵浸漬	◎	0日
		成虫		虫体浸漬	◎	
	リモニカスカブリダニ	卵	500倍	卵散布	◎	0日
		成虫		虫体散布	◎	
ハチ類	コレマンアブラバチ	成虫	1000倍	葉散布後放虫	△	成虫に対して当日放虫で影響あり
		マミー		虫体浸漬	◎	
	オンシツツヤコバチ	成虫	1000倍	葉散布後放虫	◎	1日
		マミー		虫体浸漬	◎	
	サバクツヤコバチ	成虫	1000倍	葉散布後放虫	◎	1日
		マミー	500倍	虫体浸漬	◎	
	イサエアヒメコバチ	成虫	2000倍	ドライフィルム	◎	1日
	ハモグリコマユバチ	成虫	2000倍	ドライフィルム	△	成虫に対して当日放虫で影響あり
	ハモグリミドリヒメコバチ	成虫	1000倍	葉散布後放虫	○	成虫に対して当日放虫で影響あり
	ヨトウタマゴバチ類	成虫	1000倍	葉散布後放虫	◎	1日
		蛹		寄生卵散布	◎	
カメムシ類	タイリクヒメハナカメムシ	成虫	2000倍	葉散布後放虫	×	7日
	ハミヒメハナカメムシ	成虫	1000倍	虫体浸漬	×	成虫への直接暴露で影響あり
	タバコカスミカメ	成虫	1000倍	虫体浸漬	◎	1
		幼虫		虫体散布	◎	
	クロヒョウタンカスミカメ	成虫	2000倍	葉散布後放虫	×	14日
		幼虫			△	28日
その他	ホソヒラタアブ	成虫	1000倍	虫体浸漬	×	成虫への直接暴露で影響あり
	ヤマトクサカゲロウ	幼虫	1000倍	葉散布後放虫	◎	1日
	クモンクサカゲロウ	成虫	1000倍	葉散布後放虫	◎	幼虫への直接暴露で影響あり
		幼虫		虫体浸漬	×	
	ナミテントウ	成虫	1000倍	ドライフィルム	×	成虫に対して当日放虫で影響あり
	ナナホシテントウ	幼虫	1000倍	虫体浸漬	×	幼虫への直接暴露で影響あり
	カメノコテントウ	成虫	1000倍	虫体散布	△	1日
				葉散布後放虫	○	
			2000倍	虫体散布	○	
				葉散布後放虫	◎	
	アリガタシマアザミウマ	成虫	1000倍	葉散布後放虫	×	7日
	ウヅキコモリグモ	幼体	1000倍	虫体浸漬	×	幼体への直接暴露で影響あり
微生物	バーティシリウム・レカニ	菌株	1000倍	ディスク拡散法 生菌数測定	◎	なし
	ボーベリア・バシアーナ	菌株	1000倍	ディスク拡散法 生菌数測定	◎	なし
	エルピニア・カトロボーラ	菌株	1000倍	ディスク拡散法 生菌数測定	◎	なし
	バチルス・ズブチリス	菌株	1000倍	ディスク拡散法 生菌数測定	◎	なし

有用生物	供試種名	生育ステージ	処理濃度	試験方法	評価	影響日数
訪花昆虫	セイヨウミツバチ	成虫	100μg/頭	経口投与 局所施用	◎	直接施用で影響なし
		訪花活動に対する活動	1000倍	ほ場処理後巣箱設置 各種影響調査	◎	1日
	クロマルハナバチ	成虫	100μg/頭	経口投与 局所施用	◎	直接施用で影響なし
		訪花活動に対する活動	1000倍	ほ場処理後巣箱設置 各種影響調査	◎	1日
	セイヨウオオマルハナバチ	成虫	100μg/頭	経口投与 局所施用	◎	直接施用で影響なし
		訪花活動に対する活動	1000倍	ほ場処理後巣箱設置 各種影響調査	◎	1日
	ヒロズキンバエ	成虫	1000倍	虫体散布	○	1日
			2000倍		◎	
			500～1000倍	葉散布後放虫	◎	
その他	カイコ	4齢幼虫	1000倍	葉浸漬後放虫	×	61日以上